令和７年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
ボランティア自主企画事業

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

協力と成長の物語の主人公となり展開を進めていく中で、仲間と協力する方法を考え主体的に行動できるようになることを目指す。

２．事業の概要

（１）事業名

「みんなとウーリーの自分を見つける大冒険 ～物語×キャンプ＝最高の２日間～」

（２）期日

令和７年１１月８日（土）～１１月９日（日）１泊２日

（３）参加者

①　募集対象・人数
　県内の小学校４・５・６年生　１８人

②　参加人数
　企画ボランティア１４人　小学校４・５・６年生９人

（４）企画・運営のポイント

①　自主企画事業の趣旨や企画事業の目的に沿った事業運営のため、法人ボランティアと職員間での連絡・相談ができる体制を設けた。

②　法人ボランティアが将来利用団体として手続きができるように、打合せや購入物品の申請などの書類提出や手続きについては法人ボランティア自身で準備することとした。

③　３回にわたる宿泊を伴う事業準備や半年以上にわたる定期的なミーティング・定例会の実施により、ボランティア同士の交流の機会の増進や、事業当日の余裕のある事業運営に繋げた。

④　新規の法人ボランティアと他施設の法人ボランティアを迎え、ボランティア同士の盛んな交流を行う機会とした。

３．活動の内容等

（１）日程

	11 月 8 日（土）		11 月 9 日（日）
10:00	受付	6:30	起床・洗面・清掃
10:30	開会式	7:15	朝のつどい
11:00	序章　仲間探し	7:30	朝食
12:00	昼食	8:30	最終章　失った宝物を取り戻せ
13:00	第１章　言葉を失った主人公		～仲間と吉備の森へ～
14:00	振り返り①	12:00	昼食
14:30	第２章　思いやりを忘れたロボット	13:00	振り返り③
	～思い出のシチューづくり～	13:30	閉会式
18:30	第３章　ハロウィンパーティー		
20:00	振り返り②		
20:30	入浴		
21:30	就寝準備		
22:30	就寝		

（２）活動の状況

【開会式】

【序章（アイスブレイク）】

【第１章（ジェスチャーゲーム）】

【第２章（野外炊事）】

【第２章（野外炊事）】

【第３章（ハロウィンパーティー）】

【第３章（ハロウィンパーティー）】

【就寝準備】

【最終章（オリエンテーリング）】

【最終章（オリエンテーリング）】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：８９％　やや満足：１１％

（２）参加者の声

①　児童

ア．　みんなで食べるごはんがとてもおいしかった。

イ．　今回のキャンプが楽しかったから、またここに来てみたいです。後、友達と協力することをしっかりしることができた。

ウ．　すごく楽しかったです。色々な体験をできてよかったです。特にハロウィンパーティーが楽しかったです。

エ．　みんなと仲良くなれてうれしい。

②　法人ボランティア

ア．　就職後も思い出として思い出して、ほのぼのしたい。

イ．　今回はカメラマンだったので、誰よりも子供たちの表情を見て活動できた。自施設のボランティア活動に生かして、自分なりの子どもとの接し方を見つけていきたい。

ウ．　先生になったときに、全員に目を配り、見えない部分にこそ目を向けられるようになりたい。

エ．　参加者がより自分の意見や能力を引き出せるように常に明るく対応することと、声掛けをしていく姿勢を大切にしていきたい。

（３）成果

①　今年度は、昨年度から継続して関わっている法人ボランティアが中心となったことで、事業運営の見通しを持ち、要領を理解したうえで準備を進めることができた。その結果、事業計画の精度が高まり、当日の運営もスムーズに実施できた。

②　法人ボランティアが主体的に後輩ボランティアを指導する場を設け、育成の機会を確保した。ボランティア・コーディネーターは、打ち合わせや事前研修で安全管理や参加者への配慮事項を共有し、法人ボランティアが自信を持って後輩に助言できるようサポートした。

③　後輩ボランティアは経験を積み、次年度以降の自主企画事業に関わる意欲を高めることができた。一方で、中心メンバーへの依存度が高く、新規ボランティアの参加をさらに促す仕組みづくりが課題として残った。来年度は、さらに多くの法人ボランティアの参加を目指し、ボランティア活動の魅力を伝えていきたい。

（４）今後の課題

参加者の募集が十分にできなかったため、次回は紙媒体での広報も検討したい。活動を積極的に行ったボランティアが、来年度は大きく減るため、企画・運営力を高めるための継続的なサポートを強化していく必要がある。

担当：企画指導専門職付係員　　福永　萌